

# 結びついた仕事と仕事

「可児ビジネスカフェの取り組み」

問合先 産業振興課



※河川区域のため、河川管理者の許可を得て収集しています。

ここは、今渡から土田にかけての本曾川左岸遊歩道です。よく見ると竹皮を拾う人たちがいます。竹皮は保湿力、抗菌力が強く、通気性や撥水性も高いことから、日本人は古来、おにぎりやみそなどの食品包装用、草履や靴などの工芸品として利用してきました。現在でもこの竹皮の商品化に向けて、6月中旬から7月中旬の真竹の成長時期に、剥がれ落ちる竹皮の収集をする事業者がいます。しかし、商品として使用できる竹皮は、落ちたその日に収集したものに限られます。この風景はそんな貴重な竹皮を集めるのに苦労する人が「可児ビジネスカフェ」に相談をしたことにより生まれたものです。今回はビジネスカフェへの相談をとおして結びついた仕事の事例とその取り組みを紹介します。

※本曾川左岸遊歩道

本曾川左岸遊歩道友の会により平成19年から整備、維持管理が行われ、現在のような美しい遊歩道の環境が保たれています。

## 竹皮を使った商品の一例



## 日本古来の製品を残したい

現在、竹皮を出荷している国内の事業者はわずかで、流通しているほとんどが中国産です。国産のものは中国産に比べ、柔らかく香り立ちます。竹皮は包装の原点でもあり、お寿司やうかんなどには、ほど良い風味を添えることができるなど、多くの機能を備えた製品です。また、紐状や帯状にして草履やバレンなどの工芸品にもなります。

## 竹皮確保の大変さ

竹皮は落ちてすぐに拾わないと、湿ってカビたり、乾燥しすぎて割れたりします。また竹から落ちていないものを無理に採ると、そこから傷んでしまいます。さらに、採れる期間も梅雨の時期と重なる1カ月程しかなく、多くの材料を確保するのが大変な製品です。



収集後乾燥させた竹皮



紐状にするための竹皮